|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（所属） | 眞鍋俊平（応用地質㈱）E-Mail : manabe-syunpei@oyonet.oyo.co.jpTel : 029-851-6538 |
| (1)計算モデル | ・S71～S73まで・S74に関しては、検討事項が多く、手がつきませんでした。 |
| (2)用いた手法 | ・自作プログラムによる統計的グリーン関数法・P-SV地盤応答はReflectivity法による社内プログラムを一部改変して使用 |
| (3)参考文献 | ・ G. Müller : The reflectivity method: a tutorial, J.Geophys., Vol.58, 153-174, 1985. |
| (4)有効振動数 | ・0-25 Hz |
| (5)乱数発生法 | ・計算値による加速度フーリエ振幅スペクトル（ターゲットスペクトル）に対し、一様乱数によるフーリエ位相スペクトルを与え、フーリエ逆変換により加速度時刻歴波形を得る。次に、経時特性による包絡関数を乗じ、フーリエ変換を行う。再度ターゲットスペクトルに合うように振幅値を調整し、フーリエ逆変換を行う。最後に、後続波の調整を行い、種波形を得る。・ターゲットスペクトルとフーリエ振幅スペクトルの比の二乗和平均が設定値より下回り、かつ、変位波形がベル型となるような乱数セットを採用・SV波、SH波の乱数セットは異なるが、種波形の最大変位の時刻がだいたい合うように乱数セットを選択した。＊乱数1：最大変位の時刻が比較的早い乱数セット＊乱数2：最大変位の時刻が比較的中間の乱数セット＊乱数3：最大変位の時刻が比較的遅い乱数セット |
| (6)重ね合わせ | ・なし（重ね合わせ数1×1×1として計算） |
| (7)減衰の導入法 | ・設定通り |
| (8)波形処理 | ・特になし |
| (9)その他 |  |

* ベンチマークテスト　ステップ７　統計的手法